

# クローズアップ インタビュー



瑞宝単光章受章者 **内藤十九男氏** (66歳)

## 主な略歴

昭和36年 郵政局（高浜郵便局）入局  
昭和59年 東浦郵便局に転勤  
昭和62年 高浜郵便局に戻る  
高浜郵便局長代理を務める  
平成7年 退職

平成18年春の叙勲の発表があり、高浜市内から内藤十九男さん（小池町四丁目在住）が長年郵便局に勤務され、国や地域の業務などで社会に貢献されたことを評価され、瑞宝単光章を受章されました。

## 受章の感想

とてもうれしかったです。しかし、私がいただいても良いものかと、辞退しようかとも思いましたが、周囲の人の勧めで受章させていただくことにしました。

受章当日、胸に勲章と勲記をいただいたときに、大変重みのある章をいただいたことを実感しました。

また、今まではテレビでしか拝見したことなかった天皇陛下が目の前でこやかにされているのを見て、とても感激しました。

## 仕事について

### ◆きっかけ

就職したのは、伊勢湾台風後の就職難のころ。たまたま、郵便局で集配臨時職員募集の広告を見たのがきっかけでした。

### ◆苦労

当時、郵便局にはモーターバイクはなく、自転車の前の集配力バンにハガキや封書を、後ろには小包をぎっしりと乗せ、1日に何十キロも市内を走りました。

最初は、配達先の家がわからず苦労しましたが、早く郵便物を届けてあげたい一心で、一生懸命道や家を覚えたことを思い出します。

また、雨や風の日は郵便物が濡れないように、自分なりに工夫したことを覚えています。

とにかく、お客様の大切な郵便物ですので、なくしたりしないよう強い責任感を持って働いてきたつもりです。

### ◆喜び

お客様に郵便物を届け、笑顔で「ありがとうございます」と言われたときに、この仕事をしていて良かったと思いました。「ありがとうございます。」のひとことですが、子どももおとなでも言われてうれしい言葉だと思います。

## 最後にひとこと

今ではIT化が進み、インターネットでメールを送受信することが主流になっていますが、友人などに手紙を書いてみてください。メールとは違った、人の温かみが感じられると思います。

また、先輩のアドバイスをよく聞くとともに、同僚を大切にしてください。今回私は、先輩や同僚の助けがあったからこそ受章できたものと思います、感謝の気持ちでいっぱい입니다。そして何事にも責任感を持ち、一生懸命チャレンジしてみてください。